

特別展

九州古陶磁名品展 田中丸コレクション

2006年11月9日(木) — 12月17日(日)
表千家北山会館

開館時間 9時30分—16時30分(入館は16時まで)

入館料 一般1000円・学生800円・団体(20名以上)800円/星茶含む

※会期中無休

主催 表千家北山会館・財団法人田中丸コレクション・京都新聞社

後援 京都府・京都市・京都府教育委員会・京都市教育委員会・NHK京都放送局

協力 九州国立博物館・福岡市美術館・佐賀県立九州陶磁文化館

〒810-0801 京都市中京区錦町 表千家北山会館
〒810-0801 京都市中京区錦町 表千家北山会館
〒810-0801 京都市中京区錦町 表千家北山会館
〒810-0801 京都市中京区錦町 表千家北山会館
〒810-0801 京都市中京区錦町 表千家北山会館
〒810-0801 京都市中京区錦町 表千家北山会館
〒810-0801 京都市中京区錦町 表千家北山会館
〒810-0801 京都市中京区錦町 表千家北山会館
〒810-0801 京都市中京区錦町 表千家北山会館
〒810-0801 京都市中京区錦町 表千家北山会館



九州古陶磁名品展 田中丸コレクション

田中丸コレクションは、九州の実業家・田中丸善八翁が昭和初期より50年の歳月をかけて収集した九州の古陶磁のコレクションです。その収蔵品は、九州の風土の中で育まれた陶器、磁器であり、その数々の名品の優秀さは内外に広く知られています。ことに古唐津茶碗の代表ともいわれる「絵唐津あやめ文茶碗」は、今春、重要文化財の指定を受けました。そのコレクションが京都の地で展覧されるのは今が初めてのことであり、大変意義深く、茶人のみならず多くの陶磁器愛好者の興味をそそることでしょう。

本展覧会では、「絵唐津あやめ文茶碗」をはじめ「絵唐津とくさ文茶碗」、奥高麗、朝鮮唐津の優品や、高取、上野、薩摩、小代、八代、柳原、現川、志賀、鶴ヶ崎の陶器群、さらに、初期伊万里様式から、古伊万里様式、柿右衛門様式、鍋島、須恵、平戸、長与などの磁器群と総計100余点を展示いたします。あわせてその歴史的背景にもふれ、茶陶という側面からも紹介します。

これら多種多様な九州古陶磁の珠玉の美に触れる絶好の機会になればと願っています。



絵唐津 とくさ文茶碗



柿右衛門 色絵象置物



薩摩 茶入 銘「サイノネコ」

田中丸コレクションの沿革

田中丸善八翁(1898～1973)が九州の陶磁器の収集を始めたのは、南洋貿易の仕事で大正6(1917)年にインドネシアを訪れた際に眼にした、故郷肥前(佐賀県)の陶磁器であったといわれています。インドネシアの首都ジャカルタ付近は、東インド会社が日本の色絵磁器をオランダに運んだ頃の中継基地で、今も多くの肥前色絵磁器が残されています。青年時代の善八翁が、異国の地で故郷の色絵磁器に遭遇したときの感激は想像に難くありません。また、本格的に九州陶磁の収集に乗り出す機縁となったのは、やはり故郷肥前のやきもの「絵唐津とくさ文茶碗」を昭和12(1937)年に入手してからであるといわれています。

田中丸コレクションの特色は、唐津を主とした九州陶磁を体系的に収集している点にあります。伊万里、柿右衛門、鍋島、高取、上野、薩摩など九州の主要な窯を網羅する広がりをも有するだけでなく、そこに含まれる作品の多くが各窯を代表する名品であることが、さらにコレクションを比類ないものにしています。



当館への交通について

- JR「京都駅」より
- 地下鉄丸太線国府会館行「北山駅」下車4番出口を西へ徒歩約5分
- タクシー約30分
- 阪急電車「四條烏丸駅」より
- 地下鉄丸太線乗り換え「北山駅」下車
- 京阪電車「出町柳駅」より
- タクシー約15分

表千家北山会館

〒603-8054 京都市北区上賀茂桜井町61
電話 075-724-8000 Fax 075-724-8007
http://www.kitayamakaikan.jp

茶の湯文化にふれる市民講座 テーマ「九州古陶磁の魅力」

- 11月11日(土) 荒川正明氏(出光美術館 主任学芸員)
「古唐津から柿右衛門・鍋島へ」
- 11月25日(土) 西田宏子氏(根津美術館 次長)
「二彩唐津から高取そして仁清へ」
- 12月9日(土) 林屋晴三氏(東京国立博物館 名誉館員)
「九州古陶磁にみる茶陶の魅力」

時間：14時～16時 定員：200名
参加費：2,000円(呈茶席での呈茶、特別展見学を含む)
※電話やFaxで事前にお申し込みください。なお、先着順とさせていただきます。
詳細は表千家北山会館までお尋ね下さい。



鍋島 染付庭屋形香炉